

2024 年度福岡ブロックアワードエントリーシート

LOM 名	一般社団法人 糟屋青年会議所	
事業名	2024 年 3 月度例会	
事業担当者	地域連携推進委員会 委員長 石蔵 義浩	
事業担当者連絡先	Tel:090-4487-8441	Mail: yh-ishikura@ishikura-k.co.jp
実施に至った背景	<p>JCI 糟屋は 2022 年に発足をし、当時 16 人のメンバーでした。1 期目の末には最大 22 名まで増えましたが、近年は入会者よりも卒業生の方が多く、現在は 18 名と減少傾向にあり、各年目標の拡大人数に届いていないというのが現状です。その理由として、JCI 糟屋メンバーに「会員拡大方法がわからない。」人が多数いることが上げられ、且つチームを組んで動けていないことが上げられます。</p>	
事業の目的	<p>JCI 糟屋メンバー全員が会員拡大に対する意欲を強く持ち、積極的に且つ JCI 糟屋全体で（チームを組んで）行うことができるようにします。</p>	
事業の概要	<p>講師 JCI ひびき 副理事長 竹内和久君 演題 「会員拡大から得られる学びと醍醐味」</p> <p>会員拡大に顕著な功績を残された JCI ひびき 副理事長 竹内和久君 を講師としてお招きし、その実体験をもとに自信と説得力を持って他者を説得できる人財となり会員拡大を成功させ、自らの成長につなげる醍醐味と会員拡大の実践方法を前段の講演にて語っていただきます。</p> <p>その後、メンバーは今後、JCI 糟屋の取るべき具体的な会員拡大の実践方法について、少人数の各グループにわかれてディスカッションをしていただき、それぞれのグループから 1 名に発表していただきます。さらに、発表内容について講師より講評をいただき、今後の運動への気づきを得て持ち帰っていただきました。</p>	
広報戦略	<p>以下の方法により、3 月度例会の活動方針を理解し、会員拡大において貴重な機会であることをメンバーに理解してもらうことで、参画を促進します。開催より 2 か月前からスケジュール確認をすることでメンバーのスケジュールリングを行ってもらいます。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会への電話連絡 ・委員長間連携による参加呼びかけ ・最終的な出欠確認を委員長が取りまとめて3月15日までに報告 								
実施による工夫	開催より2か月前からスケジュール確認をすることでメンバーのスケジュールリングを行っていただきます。								
事業の参加者	<table border="1"> <tr> <td>会員数</td> <td>9名</td> <td>参加率</td> <td>47%</td> </tr> <tr> <td>対外目標</td> <td>0名</td> <td>達成率</td> <td>-%</td> </tr> </table>	会員数	9名	参加率	47%	対外目標	0名	達成率	-%
	会員数	9名	参加率	47%					
対外目標	0名	達成率	-%						
事業対象者	<p>(対内)</p> <p>糟屋青年会議所会員 19名 外部監事 4名 外部顧問 2名</p>								
開催期間日時	2024年3月26日 18時30分～21時15分								
開催場所	<p>リーパスプラザこが</p> <p>〒811-3103</p> <p>福岡県古賀市中2丁目13-1</p>								
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続								
結果	<p>1. 目的がどのくらい達成できたか</p> <p>Q1: 会員拡大に対する意欲が高まりましたか?</p> <p>糟屋青年会議所会員 参加9名中9名 「はい」 100%</p> <p>Q2: 会員拡大をJCI糟屋全体で(チームを組んで)行う手法がわかりましたか?</p> <p>糟屋青年会議所会員 参加9名中9名 「はい」 100%</p> <p>2. 上記の結果の確認方法</p> <p>参加者アンケートによって確認致しました。</p> <p>3. 検証結果</p> <p>この例会で会員拡大の方法について知る機会となりました。そしてひびき青年会議所の方々とも親睦を図ることができました。しかし、JCI糟屋メンバーの出席率が低く、50%以下の出席率となってしまいました。今後は各委員長への連絡だけではなく、積極的にメンバーへの個人連絡、例会の目的や意義の共有、委員会訪問などが必要と感じました。</p>								

	<p>そして例会では、ロールプレイングの事前準備をし、より自信をもってアウトプットできる場を用意し、本番をイメージしたりリハーサルを最初から最後まで進捗確認しながら細かく行うことが必要でした。</p>
<p>LOM や地域社会への影響</p>	<p>会員が増えることで、組織は新しいアイデアやリソースを取り入れ、成長の機会を得ることができます。多様なバックグラウンドを持つ新規会員が、LOM に新たな視点やスキルをもたらします。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>5年後、10年後、JCI 糟屋の組織はどうあるべきか、そのために会員拡大をどう考えるか、会員で議論を重ね、JC の理念に共感し入会いただく会員を増やします。多様性に溢れ、持続可能な組織をつくるためには、女性や 20 代の若手会員、公務員や会社員の方など、多種多様な人財が必要です。そのような人財が地域のリーダーとして活躍し、自ら JC に入会したいという人が増える、未来への輪を広げていきます。</p>
<p>考察や推奨</p>	<p>JCI 糟屋にとって「会員拡大」は、JCI 糟屋を存続させるために最も重要な課題のひとつであると感じます。そのため、複数の職務を掛け持ちする委員会の運営ではなく、会員拡大に関する例会は「拡大委員会」という委員会を設置したうえで、次回は、拡大候補者も呼べるようなイベントにし、全委員会を巻き込んだうえでより念入りな準備をする必要があると感じました。</p> <p>そして順序としては、そもそもメンバーが JCI 糟屋の意義と理解を深めたうえで、全員が JCI 糟屋に魅力を感じ、会員拡大を行わなければ意味がないと感じました。</p>

事業風景(写真)

